

冠婚葬祭



インド チェンナイ

BOP層実態調査レポート

インドには、文化や宗教、信仰ごとに各種祭礼や儀式を行う何世紀にもわたる伝統がある。祭礼や儀式には、個人、集団、収穫、自然、道具などに関するものがあるが、比較的各地で一般的な冠婚葬祭に関わる祭礼の一部を紹介する。

誕生

幼年期は特別な時期であり、家族や友人が次のようなお祝いをする。

命名: ヒンズー教の家庭では、子どもが生まれるとすぐに命名式(namkaran)を行い、詩(shloka)を唱え、賛美歌(hymn)を歌う。イスラム教の家庭でも同様に、子どもの上あごにナツメヤシの汁を塗り、耳元でAzaanなどの連句を唱える。両親は聖職者と相談して、子どもの名前を選ぶ。儀式には、近親者や親しい友人が参列する。

1歳の誕生日: 子どもの最初の誕生日は、一般的に厳かに祝われる。このお祝いには、家族や親類、友人が大勢参列する。誕生日を祝う儀式的後に昼食あるいは夕食が続く。通常、招待客は子どもや両親に、金製装飾品や小さな銀製用具、おもちゃなどの贈り物を持参する。





結婚

人生で重要な節目の一つが結婚である。ほとんどの場合、結婚式の日取りと時間は、家族が占星術師に相談して決められる。

結婚式は、宗教や信念、社会経済的地位に関わらず、丁寧に行われる。婚約に始まり、新郎・新婦相互の家庭の訪問、結婚式と続く。結婚式はしばしば結婚式場で行われ、家族や親族、友人が出席する。結婚式が昼夜いずれに行われるかに関わらず、音楽や食事が準備されて祝われる。



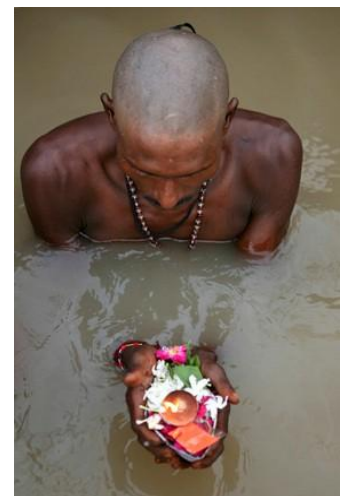
葬儀

どの民族にも、人が亡くなった際にそれぞれの最後の儀式があり、それは信仰する宗教の影響を受けている。通常、聖職者が儀式を行う。

葬儀: 1日の場合もあれば、稀には3日間続く場合もある。ヒンズー教は輪廻を信じており、長生きして幸福な人生を送った人の葬送の行列に音楽の伴奏が伴うことがある。これは靈魂が生まれ変わることを示している。ヒンズー教の習慣では、遺体は火葬されるが、イスラム教やキリスト教では土葬される。

回想: 16日目に家族全員が家に集まり、最後の儀式が行われる。集まった家族や友人が故人の人生を賛美する。ヒンズー教は、15日の周期で亡くなった祖先を回想し供物を捧げ、聖職者と共に靈魂の安らかな眠りを祈る。

儀式は一般に非常に熱心に行われるが、その規模は家族の経済力によって異なる。



JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。